

普及活動情勢報告（平成30年6月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

J A 高知はた大方支所園芸部オクラ部会目慣らし会



大切な話は聞き逃しません

5月25日、J A 高知はた大方南部集出荷場で、後作オクラに取り組む大方南部地区の生産者12名が集まり、目慣らし会を行いました。

J A 販売担当から出荷規格の説明を行った後、農業改良普及課が、事前にJ A、アドバイザー農家と実施した現地巡回の結果を紹介しながら、収穫期間中の施肥と摘葉を中心に管理のポイントを説明しました。複数の参加者から、灰色かび病対策の質問があり、ハウス栽培で大きな問題となっていることを実感しました。

農業改良普及課は、今後も栽培管理指導を通じて、生産者の収量UPを支援していきます。

「光の当たり具合を見て剪定しよう。」・・・三原農業公社研修生ユズ剪定指導・・・



5月25日、三原村農業公社ユズ園で研修生対象の剪定講習会を行い、研修生と公社職員合わせて5名が参加しました。

農業改良普及課は、剪定を迷っている木を剪定したり、剪定位置を指示しました。現地は公社園の中では日照時間の短い園地で、研修生はこれまでの日当たりのよい園地と反対内容の指導に戸惑いながら、ユズは適度な日照が大事ということを理解しました。

農業改良普及課は、今後も園地の条件や樹勢に応じた剪定を指導していきます。

「直七の里をみんなで育ててゆこう」・・・直七栽培管理講習会・・・



5月29日、宿毛市文教センターで生産希望者13名が参加して行われた「直七」産地推進事業説明会で、年間の栽培管理講習会を開催しました。

販売が順調に伸びているのかかわらず生産が思うように拡大しないことから、今回直七生産組合から依頼を受けて、農業改良普及課が栽培暦を作成し、栽培管理について講習を行いました。

参加者からは、「今までこのような資料がなかったので大変わかりやすい」、「指導を受けてこれまでの管理が間違っていたことが分かった」など意見が出されました。

農業改良普及課では、「直七」が宿毛市の顔となる製品になるよう、宿毛市と共に栽培の拡大や技術の向上を支援していきます。

「幡多はこれから！」

・・・幡多地区環境制御技術研究会総会・研修会・・・



研修会では座る場所が無くなるくらいの参加となりました

5月30日、J A高知はた本所にて、幡多地区環境制御技術研究会総会を開催しました。年々会員数は増えており、設立当初の倍となる71名になっています。この日は総会と、専門技術員による研修会を行い、関係機関を含め80名の参加となりました。また、業者から「ファインバブル」の紹介もあり、積極的な意見交換が行われました。

農業改良普及課では、研究会活動支援とともに環境制御技術の普及推進、技術向上による増収を図っていきます。

イチゴ育苗現地検討会

・・・J A高知はた宿毛支所イチゴ部会・・・



6月8日、イチゴ生産者10名が参加して、J A高知はた宿毛支所管内全ての生産者の育苗ほ場で現地検討会を開催しました。

農業改良普及課からは、育苗期における管理のポイントや天敵資材の試験結果について情報提供を行いました。生産者からは、「施肥はどのくらいの間隔で行うと良い？」など、育苗期のかん水管理や肥培管理について積極的な質問、意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も定期的に現地検討会を開催し、時期に応じた栽培管理方法の指導を行っていきます。

J A高知はた宿毛支所オクラ部会目慣らし会・・・市場事故の防止に向けて・・・



6月8日、宿毛支所出荷場と宿毛東出張所の2ヶ所で、目慣らし会が開催され、58人の部会員が集まりました。

販売課からOAMの規格の変更、園芸連からは異物混入に関する注意事項の説明がありました。

農業改良普及課からは、過去10年のJ A高知はたのオクラ市場トラブルの推移と果実黒斑病やイボ果、スレ果などの対策のためのほ場環境や収穫後の保管管理について注意喚起をしました。

今後もオクラ部会独自の果実黒斑病対策用GAP点検項目の確認と記録を啓発していきます。

オクラ品目別現地検討会・・・J A高知はた宿毛支所オクラ部会ミドル会 I P M実証実績を報告・・・



5月21日に南国市で、県内のオクラ生産者と関係機関が集まり、県域現地検討会が開催されました(参加者60人)。

南国市内の現地ほ場を見学した後、グレース浜すしで、話題提供として、幡多農業振興センターからは昨年実施した露地オクラにおけるインセクターープランツを活用した実証ほの成果を報告しました。実証ほを担当した生産者からも農薬使用回数が削減できたという話を繋げてもらうことができました。

農業改良普及課では引き続き、他産地へ波及していくよう、J A高知はた管内の他の支所でも実証を続けていきます。

オクラ部会指宿視察・・・全国一のオクラ産地、指宿市の取り組みを見に行きました・・・



6月5日、J A高知はたオクラ生産者4人と関係機関で鹿児島県指宿市のオクラ栽培状況を視察してきました。

指宿市では、オクラが重点品目に位置づけられ、I P M技術が積極的に取り入れられています。

施設栽培ではエンバク、露地栽培では短尺ソルゴーとヘアリーベッチが植栽され、アブラバチ類やテントウムシ類などの土着天敵を活用したアブラムシ類防除技術が広がっていました。これらのI P M技術を活かして有利販売に繋げようとする活動も見ることができました。今回の視察は若い生産者には刺激になりました。

農業改良普及課は、土着天敵温存技術の向上を目指して、インセクターープランツ活用技術が幡多地域全域に広がるよう支援していきます。

J A高知はた三崎支所オクラ部会目慣らし会・・・市場トラブルの低減を目指して・・・



5月31日、三崎支所選果場で、目慣らし会が開催され、9人の部会員が参加しました。

J Aと園芸連と連携してO A Mの規格変更や販売概況、異物混入対策の情報提供を行い、参加者全員で目慣らしを行いました。参加者からは、「灰色カビが付くと黒ずむんやねえ」、「詰め子さんと一緒に目慣らし会をやってはどうか」といった意見が出されました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してオクラ産地の市場トラブルの低減を目指していきます。

J A 高知はた大月支所オクラ部会現地検討会・・・収量向上を目指して・・・



5月31日、大月支所オクラほ場で現地検討会が開催され、11人の部会員が参加しました。

J Aからは、収穫や追肥、病虫害対策といった今後の栽培管理について情報提供を行いました。また、農業改良普及課からは、他支所で行っている土着天敵活用技術や、G A Pについて情報提供を行いました。

病虫害防除や仕立て方法について参加者同士で積極的な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後もオクラ産地の収量向上・安定化を目指して支援していきます。

J A 高知はた大月支所オクラ部会目慣らし会・・・市場トラブルの低減を目指して・・・



6月7日、大月支所選果場で、目慣らし会が開催され、14人の部会員が参加しました。

J Aと園芸連と連携してO A Mの規格変更や販売概況、異物混入対策の情報提供を行いました。農業改良普及課からは、市場トラブル軽減のための対策法やG A Pについて情報提供を行いました。参加者同士で規格外となる果実を確認し合う様子が見られました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してオクラ産地の市場トラブルの低減を目指していきます。

いいものをつくっていこう！・・・J A 高知はた三崎支所シシトウ部会現地検討会・目慣らし会・・・



仕立て方を確認する参加者

6月12日、J A 高知はた三崎支所管内の現地ほ場で、現地検討会と目慣らし会が開催され、生産者18人が参加しました。

栽培状況や出荷規格を確認し、ほ場のシシトウを使って誘引や摘枝方法といった仕立て方について活発な意見交換が行われました。また規格外となる果実を参加者同士で確認して目慣らしを行っていました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと協力して収量・品質の向上のための現地検討会や巡回などを通じて部会活動を支援していきます。

遠くの安全、近所の安全、身近な安全から始めよう・・・幡多地区GAP研修会・・・



幡多農高の生徒も参加

6月15日、JA高知はた本所大ホールで、安心農業株式会社の藤井淳生氏を講師に、GAP研修会が開催され、約100名（生産者39名）が参加しました。

農産物の食品安全、ほ場や出荷場周囲の環境保全、農作業時の安全など、未然に事故の防止に努め守備力の高く改善策を持つことがいい産地であるといった内容がわかりやすく示されました。

講演後、県基準のチェックリストは必須なのかといった質問もありましたが、取り組めるところから一つずつからでもいいので継続して改善していくことがGAPだということで、取り組んでみたいといった声もあがりました。

農業改良普及課は、今後も研修会やほ場点検・出荷場点検などを行い、生産者のGAP実践を支援していきます。